

## Contents

- マタギから学ぶ自然との共生  
理事 五十嵐 実
- 第22回自然保護助成基金助成先
- 自然保護助成基金助成先のご紹介  
・ 森林インストラクターと市民有志
- 春のプログラムのご案内

## 春の里山に咲くオオイワカガミ

## マタギから学ぶ自然との共生

理事 五十嵐 実

皆さんはマタギと聞くとどのようなことを想像されるでしょうか。山の中で「熊打ち」で狩猟をする人という理解が多いと思います。

マタギは東北地方を中心に新潟、北関東、北海道まで山間地で伝統的な狩猟を集団で行うことを専業としていた集団です。その歴史は平安、鎌倉のころからの歴史を持つものであったといわれています。

秋田の阿仁がマタギの里として有名ですが、この阿仁から新潟県のマタギ（新潟では山人、山立と呼ぶ）は影響を受け、あるいは旅マタギ（冬場に猟場を求め旅をする）の人が新潟に住み着いたといわれています。新潟県では村上市三面、山熊田、阿賀町鹿瀬、津南町秋山郷などがマタギの里として知られています。奥三面の集落は有名なマタギ文化を持つていましたが、残念なことに奥三面ダムの建設により村はダムに沈み住人の方は村上などに移住されてしまいました。

マタギのしきたりや考え方は「自然」といかに共生していくかが色濃く反映されています。例えば獲物や

山菜など自然の再生産力の範囲で取っていたこともそうです。「山は半分殺してちょうどいい」この言葉はあるマタギの方が話されてことです。が、「山を自然のままにしている人は生きていけない、自然に手を入れてその勢いを抑え、そこから恵みをいただくが、人も欲を半分我慢して自然からすべて取りきらない」という自然をオーバーユース（過剰利用）しない掟を持って暮らしていました。また、「止め山」の制度というものが、人が使う場所を定め、いわばバッファゾーン（緩衝地帯）として山を使い、奥山は狩猟の場として使うコアゾーン（核心地帯）として使い分けをしていました。熊などの肉も、狩りに参加したもので平等に分配し、これが「山分け」の語源になりました。また、村の共有地なども様々な取り決めがあり、持続可能に使えるような規則や共同作業が多くあります。このようにマタギの村々は自然を持続可能に利用していく知恵を有していました。コモンズ（共有地）を持続可能に利用することが出来ていたといえま



よう。よく共有地はみんなが勝手に使って壊されてしまうという「共有地の悲劇」として取り上げられます。しかし、日本の入会地、里山、などでは持続可能な利用が昔からされてきました。

現在、縁あって阿賀町を中心にマタギのエコツアーを行っています。阿賀町の江花一実氏は熊を撃つマタギの伝統を受け継いでおられます。彼からマタギの巻き狩りの内容、山でのしきたり、自然の利用法など様々の知恵をこのツアーでは学びます。その中にたくさんマタギの知恵があり、自然を持続化可能な形で利用する工夫がなされています。もう一度、このような伝統的な知恵をこれ



からの自然との付き合いに生かせないか、その可能性を考えていきたいと思っています。

(日本自然環境専門学校 学校長)

## 第22回自然保護助成基金の助成先が決まりました

### 第22回(2023)こしじ水と緑の会・朝日酒造自然保護助成基金 助成先 (申請順・敬称略)

No.	助成先	所在地	内 容	助成金額
1	青田川を愛する会	上越市	「地域の宝・青田川」学習用冊子作成	¥500,000
2	小千谷の自然を愛する会	小千谷市	高場山の植物調査のまとめ	¥500,000
3	越後松之山「森の学校」キョロ友の会	十日町市	身近な侵略的外来種アメリカザリガニの分布状況や生態系への影響に関する調査・駆除・イベントの開催	¥500,000
4	昆虫はかせネットワーク	長岡市	清水守昆虫標本の保全と活用	¥500,000
5	新潟10万年の大地の変動と災害を考える会	新潟市	越後平野周辺における後期更新世～現世の地殻変動と災害～とくに大地震による地質災害に向けて	¥500,000
6	上越希少生物保全研究会	上越市	上越希少生物保全研究会の設立とキタノアカヒレタビラの保全	¥500,000
7	新潟河川生態研究グループ	新潟市	鯖石川における陸水学的調査ならびに環境教材の作成	¥500,000
8	にいがたダイバーシティネットワーク	新潟市	新潟の自然・生き物を学ぶ会「ちょ～生き物発表会 シーズン6」	¥190,000
9	特定非営利活動法人 WARABI	柏崎市	森の秘密基地づくり&たき火体験	¥500,000
10	日本自然環境専門学校	新潟市	日本海側の湿地に生育するミヤマウメモドキの生育環境とその保全	¥500,000

総額 ¥4,690,000

## 助成先紹介

### 大事にしたい身近な自然

森林インストラクターと市民有志  
松田英也

#### 失われた緑の回復

長岡東山の自然観察林は、40年ほど前に国の補助を受けて県が整備した市有林で、市内外から愛好者が訪れています。

以前から地元の森林インストラクターも活動の場としてきましたが、平成10年頃発生した豪雨により、林内の溪流が氾濫して被害が生じたため、大規模な堰堤・護岸工事が行われました。その結果、川の流れは安定したものの、伐り開かれた森林の無残な姿を眼前にしたことが、環境保全への大きな動機となりました。

自然観察林は面積約34ha、標高294mのブナ平を頂きに北西向きに広がる保健・水源かん養保安林で、溪流やため池、湿性地や草原など、里山的な変化に富んだ環境を持っています。私たちは環境保全の第一歩として、現地の自然の豊かさ、大切さを多くの方々から知っていただきたいと、平成18年夏に「自然観察林生き物生態マップ」2000部を発行。関係機関や学校、市民に配布し、翌19年秋からは「にいがた緑の百年物語」の助成を受け、市民有志を募

って植樹会や育樹会を実施、23年からは任意団体として現在に至ります。植樹の主な目的は、かつて森林であつた場所の回復で、クズに覆われ漬物石が埋まったような工事残土への植樹は困難でしたが、十数年を経て4か所の現場は何とか形になりました。

たくさん生きものが環境の豊かさとして造られた「瞑想の池」と観察林の玄関口である「湿生植物園」を中核施設と位置付けた「自然観察林エコアップ実施計画」を作成し、一面に樹脂シートが貼られ、周囲に植生がないながら、貴重生物の棲息・繁殖の場となったため池のビオトープ化や堆積砂泥の排除、さらに溪流から流入した土砂で陸化が進んだ湿性地を復元し、ミズバショウやアヤメ科植物など四季折々の野草を鑑賞できる植物園を再現することができました。

この間、各方面から多大な助成・ご支援を頂き、また現地を管理する長岡市担当部署とも意思疎通を図りながら、多様な動植物で構成されるバランスの取れた生態系づくりにも微力を傾けてきました。

目下の課題は、30年前に植えられ

た観察林中央部杉林の手入れで、保安林の役割を発揮するための整備を検討し、早急に取りかかることが必要ではないかと考えているところです。けれども、活動は肩の力を抜いて「できるときに、できることを・・・」をモットーに無理はせず、また森からの恵みは有難く頂戴しながら、楽しく自然とつき合うことも忘れません。

この地方独特の貴重な生き物に恵まれ手軽な自然とのふれあいができるこの森林が名実ともに「自然観察林」として将来に遺るよう、さまざまな活動を続けていきたいと思っています。



植樹会風景



里山新緑散策会



縄文の味体験

## 春のプログラムのご案内

### 春の里山に親しむ会「越路の森」

地元塚野山の方々が長年草刈りなどの管理をしている旧道を歩きながら、自然観察を行います。歴史を感じながら自然観察を楽しみましょう。

- ☆日 時 4月29日(土) 9:00~12:00 / 集合: 長谷川邸駐車場 (長岡市塚野山824)
- ☆募 集 20名
- ☆参加費 ¥300 (当会会員¥200)
- ☆申込〆切 4月25日(火)

### ツリークライミング体験

見上げるような高い木に安全に登ります。大人も子どもも非日常の世界をお楽しみください!

- ☆日 時 5月3日(水・祝) 1回目 9:00~ 2回目 10:30~
- 3回目 12:45~ 4回目 14:15~

※ご希望の回にお申しください。

- ☆集 合 巴ヶ丘自然公園駐車場 (長岡市来迎寺甲816)
- ☆募 集 各回とも8名 (小学生以上・先着順)
- ☆参加費 ¥300 (当会会員¥200)
- ☆申込〆切 4月25日(火)

☆お申込 事務局まで参加される方のお名前 (お子様はお名前と年齢)、住所、電話番号をお知らせください。後日、事前のご案内をお送りいたします。

TEL・FAX: 0258-92-5238 メール: info@koshiji-nf.org

・悪天候やコロナウイルス感染拡大の状況などにより中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

### ご寄附ありがとうございました

(2022年12月1日~2023年2月28日、敬称略・順不同)

永塚圭一、吉田直樹、神田隆史、西山拓、小嶋基成、遠藤好一、渡邊勉、(株) INPEX長岡鉱場、山賀基良、佐藤昇一、小林良博、安澤義彦、佐藤友則、佐藤優子、渡辺将勝、細田康、長田守、駒形哲也、中山やすよ、浅井拓郎、牧野恭、大橋良策、小林生真、酒井鉄平、本間一郎

### 編集後記

昨年12月の大雪には驚きました… 道路は除雪が間に合わず、電車も止まりました。自然に対する人間の非力さを実感した大雪でした。  
(拓)

### 会員動向 (2023年2月28日現在)

会員449名 (個人388、法人61)

引き続き、ご支援のほど宜しくお願い致します。

公益財団法人

こしじ水と緑の会

本誌は再生紙を使用しています  
VEGETABLE OIL INK 植物油インキを使用しています

〒949-5412 新潟県長岡市朝日595番地5 電話・FAX 0258-92-5238  
HP <https://www.koshiji-nf.org> E-mail info@koshiji-nf.org